

平成 24 年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価 報告書

平成 26 年 2 月

中野市教育委員会

1 中野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 27 条の規定に基づき実施するものです。

（参考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 点検・評価の対象は、平成 24 年度の事務事業とし、教育委員会において実施している事務事業評価(平成 25 年度)をもって点検・評価とする。

《点検・評価対象事業一覧》

番号	事務事業名	評価	担当課	頁
1	小中学校特別支援教育就学奨励費	A(現状継続)	学校教育課	1
2	小中学校特別支援教育支援員配置事業	A(現状継続)	学校教育課	2
3	小中学校教育用及び校内 LAN コンピュータ借上事業	AA(拡大)	学校教育課	3
4	中野小学校前庭芝生化事業	A(現状継続)	学校教育課	4
5	奨学基金繰出金	A(現状継続)	学校教育課	5
6	学校体育・文化活動補助金	A(現状継続)	学校教育課	6
7	中野まなびい塾事業	A(現状継続)	生涯学習課	7
8	指定文化財保護活用事業	A(現状継続)	生涯学習課	8
9	山田家資料館収蔵資料調査事業	A(現状継続)	生涯学習課	9
10	高遠山古墳整備事業	A(現状継続)	生涯学習課	10
11	公民館報発行事業	A(現状継続)	公民館	11
12	シニア大学・高齢者学級	A(現状継続)	公民館	12
13	子ども育成事業	A(現状継続)	公民館	13
14	図書館まつり事業	A(現状継続)	図書館	14
15	読み聞かせステップアップ講座	A(現状継続)	図書館	15
16	子ども読書週間事業	B(改善継続)	図書館	16
17	学芸員講座	A(現状継続)	博物館	17

3 平成 24 年度に開催した教育委員会の会議及び委員の主な活動状況は、18 頁以降のとおりです。

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	小中学校特別支援教育就学奨励費
-------	-----------------

事務事業 担当部署	教育委員会	部・事務局	学校教育課	課・室	学校教育係	係
--------------	-------	-------	-------	-----	-------	---

I 事業のプロフィール

事業期間	昭和 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	1 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）			
	小中学校の特別支援学級に入級する児童生徒及び通学区外の学校の特別支援学級に通っている児童生徒の保護者	小中学校の特別支援学級に入級又は通っている児童生徒の経済的負担を軽減するため、負担能力の程度に応じ必要な援助をし、もって、特別支援教育の普及奨励を図る。			
事業内容	保護者の申請に基づき、内容を審査した上、学用品費等・新入学児童生徒学用品費等・校外活動費・修学旅行費・学校給食費・通学費の全部又は一部を支給する。				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	障がい等があり特別支援学級に入級する児童生徒は増加傾向にあるため、市民ニーズは高い。	生活保護支援	学校教育法		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	4,240,240	5,443,000
	国庫支出金	円	1,452,000	901,000	
	県支出金	円	0	0	
	その他（使用料他）③	円	0	0	
	市費（起債）	円	0	0	
	市費（一般）	円	2,788,240	4,542,000	

III 期待される効果

特別支援学級に入級する児童の保護者は、経済的・精神的に負担が大きいため、この支援により保護者の負担が軽減される。

IV 現状と課題

障がい等のある児童生徒は、一人一人の教育的ニーズに応じた支援が必要であり、子ども部と連携しながら支援をしているが、年々対象児童生徒が増加する傾向にある。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

申請が増えているため、認定に要する事務量が増加する傾向にあり、事務処理システムの導入等について研究していきたい。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	小中学校特別支援教育支援員配置事業					
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	学校教育課	課・室	総務係	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 19 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6)	章	1	節	①	項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）						
	全児童・生徒及び特別な支援を要する児童・生徒	就学する全ての児童・生徒が安心して学校生活を送れるようにしたい。						
事業内容	特別な支援を必要とする児童・生徒それぞれのニーズに対応した支援をするため、各学校に支援員を配置している。							
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画					
	障がい等のある児童・生徒も、地元の学校に通い学ばせたいと希望する保護者が増えている。	無	学校教育法					

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	38,249,666	41,673,448
財源内訳	国庫支出金	円			
	県支出金	円			
	その他（使用料他）③	円			
	市費（起債）	円			
	市費（一般）	円	38,249,666	41,673,448	

III 期待される効果

特別な支援を必要とする児童・生徒それぞれにきめ細やかな支援をすることにより、安心して地元の学校に通えるようになるとともに、家庭や地域において学校教育に理解を深めることができる。

IV 現状と課題

各学校で希望する支援員人数を確保しているが、今後、就学児童・生徒の1人1人の状況により、支援員の増員やそれに伴う予算措置を検討する必要がある。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

学校や指導主事との連携により、就学児童・生徒の状況を早期に把握し、支援員が必要な学校へ適正な人員を配置できるよう予算措置にも配慮する。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	小中学校教育用及び校内LANコンピュータ借上事業
-------	--------------------------

事務事業 担当部署	教育委員会	部・事務局	学校教育課	課・室	学校教育係	係
--------------	-------	-------	-------	-----	-------	---

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 8 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	1 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を） 市内小中学校児童生徒	意図（どのような状態にしたいのか） 学習指導要領で、コンピュータや通信情報ネットワークなどの活用を図ることが明記されており、ICTを活用した教育環境の整備を図り、情報学習を充実させるため、教育用及び校務用コンピュータを借上げ方式により整備する。			
事業内容	教育用及び校務用コンピュータ機器の借上げ（5年間の長期継続契約をし、その後1年間再リース）				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	コンピュータ機器の充実が望まれる。	教育用及び校務用コンピュータ借上事業（国立大、私立大、県立高、私立高 等）	教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育の情報化ビジョン		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	22,249,913	21,326,000
		国庫支出金	円	0	0
		県支出金	円	0	0
		その他（使用料他）③	円	0	0
		市費（起債）	円	0	0
		市費（一般）	円	22,249,913	21,326,000

III 期待される効果

コンピュータ機器を整備するに当たり、単年度の支出を抑え、負担の平準化が図られる。

IV 現状と課題

H21年度に国の補助金を活用して学校間ネットワークを整備して以降、長期的費用負担の軽減のため買取方式により整備を行ってきたものの、市単での費用負担の平準化や故障時のサポート等を考慮し、H24年度から借上方式に戻している。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

より一層の教育の情報化が求められている中で、借上方式に戻したことにより負担の平準化が図られ、安定的にICT環境整備を進めることができる。

VI 最終評価

最終評価	AA（拡大）
------	--------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	中野小学校前庭芝生化事業
-------	--------------

事務事業 担当部署	教育委員会	部・事務局	学校教育課	課・室	施設係	係
--------------	-------	-------	-------	-----	-----	---

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 23 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	1 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）			
	中野小学校低学年児童	前庭の芝生化			
事業内容	前庭芝生化 実施面積 A=400㎡				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	子どもの体力向上と情操教育のためニーズが高い	他県ではグラウンド芝生化事業	無		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	813,540	129,465
		国庫支出金	円		
		県支出金	円		
		その他（使用料他）③	円		
		市費（起債）	円		
		市費（一般）	円	813,540	129,465

III 期待される効果

児童に芝生のクッション効果で、のびのびと活動ができ、基礎体力・運動能力の活動ができ、基礎体力・運動能力の向上が図れる。また、地球温暖化対策、環境教材として活用が期待される。

IV 現状と課題

芝生の維持管理は難しく、水くれ、肥料、雑草処理を怠ると良い状態にならないので、できるだけ手を入れなければならない。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

出来るだけ簡易なマニュアルを作成し児童でも日常管理に携われる管理方法を確立したい。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	奨学基金操出金
-------	---------

事務事業 担当部署	教育委員会	部・事務局	学校教育課	課・室	総務係	係
--------------	-------	-------	-------	-----	-----	---

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 14 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	1 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）			
	市内に居住している（いた）高校及び大学、専門学校に進学を予定しているものまたは在学しているもの。	奨学基金により、次代を担う優秀で意欲のある人材の育成を奨励する。			
事業内容	新規貸付者（私大・自宅外）を毎年8名程度とし、基金不足分を平成24年度から11,000千円 一般会計より繰入をすることで基金運営を継続することができる。				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	経済的理由による就学困難者には、無利子である市の奨学金制度はニーズが高い	長野県高等学校奨学金等	中野市奨学基金の設置、管理及び処分に関する条例施行規則		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	11,007,995	11,008,000
	国庫支出金	円	0	0	
	県支出金	円	0	0	
	その他（使用料他）③	円	0	0	
	市費（起債）	円	0	0	
	市費（一般）	円	11,007,995	11,008,000	

III 期待される効果

奨学基金により次代を担う優秀な人材を奨励することができる。

IV 現状と課題

学校の種別により、貸与額が異なるため、毎年同じ人数でも計画が立てにくい。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

新規貸与者の選抜方法については今後も改善していく余地はある。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	学校体育・文化活動補助金					
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	学校教育課	課・室	学校教育係	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6)	章	1	節	①	項
事業目的	交付先、団体等	補助金・負担金の目的、効果						
	市内小中学校	児童生徒の体育及び文化活動において県大会以上の大会に派遣する事業を行う学校に対し、補助を行うことにより、体育及び文化活動の振興を図る。						
事業内容	補助金・負担金の算出根拠	具体的な活動内容						
	大会に参加する学校の児童又は生徒の旅費の2分の1以内。ただし、1人当たり10,000円を限度とする。	体育及び文化活動						
	補助金等の性格	交付先区分	根拠法令・基礎となる計画					
	一般補助	その他（任意団体）	中野市学校体育及び文化活動事業補助金交付要綱					

II 事業の費用

事業費	項目	単位	平成24年度	平成25年度
			決算額	予算額
(内訳)	事業費①	円	347,120	360,000
	国、県補助金	円	0	
	市（一般財源）	円	347,120	360,000

III 期待される効果

児童生徒の健全な心身の育成及び保護者の経済的負担の軽減。

IV 現状と課題

児童生徒数の減少及び運動離れが進んでおり、部活動参加人数が減少傾向にあるため、部活動運営が困難になってきている。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

児童生徒の体育及び文化活動への向上心を養い、健やかな心身を育むことができる。
また運動離れへの歯止めをかけるためにも本事業の継続が望ましい。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	中野まなびい塾事業					
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	生涯学習課	課・室	生涯学習推進係	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 10 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	2 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）			
	市民	市民の市政に関する理解を深め、市民と行政が共に協力しあい、一体となって生涯学習による市民参加のまちづくりを推進することを目的とする。			
事業内容	市が行っている仕事を講座メニューとして、市民が講座を選んで、市の職員が講師となって、地域に出向き、講座を行う。平成24年度 21回実施 496人参加				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	講座に対するアンケートでは、概ね好評です。	県政出前講座（長野県）	生涯学習基本構想		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	0	0
財源内訳	国庫支出金	円	0	0	
	県支出金	円	0	0	
	その他（使用料他）③	円	0	0	
	市費（起債）	円	0	0	
	市費（一般）	円	0	0	

III 期待される効果

市民の行政への理解を深め、生涯学習による市民参加のまちづくりの推進

IV 現状と課題

市民が気軽に取り組める学習活動の場として定着している。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

周知については、広報等で行っているが、知らない市民も多いので、機会あるごとに啓発を行っていく。市民ニーズに合わせたメニュー提案も必要である。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	指定文化財保護活用事業					
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	生涯学習課	課・室	文化財係	係

I 事業のプロフィール

事業期間	昭和 47 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6)	章	3	節	①	項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）						
	市民	文化財の保護、保存、管理及び活用を図り、市民の地域文化の向上に資する。						
事業内容	文化財の指定、啓発、管理及び活用							
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画					
	文化財の保護、保存、管理及び活用	国、県及び市町村による文化財の保護、保存、管理及び活用事業	文化財保護法 長野県文化財保護条例 中野市文化財保護条例					

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	2,686,806	7,324,000
		国庫支出金	円		
		県支出金	円		
		その他（使用料他）③	円		
		市費（起債）	円		
		市費（一般）	円	2,686,806	7,324,000

III 期待される効果

地域の貴重な文化財を次の世代へ継承するとともに、文化財に対する理解を深め、保護意識が向上する。

IV 現状と課題

文化財を適切に保存管理するための費用が必要である。
社会教育・学校教育等との連携により、活用を図る必要がある。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

文化財の保護活用への市民参加や協力を活性化するための活動が必要がある。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	山田家資料館収蔵資料調査事業					
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	生涯学習課	課・室	文化財係	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6)	章	3	節	①	項	
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）							
	市民	山田家資料館が収蔵する資料群の調査研究を行い、貴重な文化遺産として一般に公開する。							
事業内容	山田家資料館収蔵資料の調査研究と公開。								
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画						
	見学者は年々増加傾向にある	無	無						

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	939,525	2,500,000
	国庫支出金	円			
	県支出金	円			
	その他（使用料他）③	円			
	市費（起債）	円			
	市費（一般）	円	939,525	2,500,000	

III 期待される効果

山田家資料の全体像を把握するとともに、資料群の価値を広く周知する。

IV 現状と課題

平成21年度からの収蔵品調査が概ね完了し、平成25年度に報告書の一部刊行をめざして調査研究を進めている。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

山田家資料の重要性、貴重性を周知するための有効な活用方法の検討が必要である。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	高遠山古墳整備事業					
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	生涯学習課	課・室	文化財係	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 12 年度 ~ 平成 34 年度	総合計画体系	(6)	章	3	節	①	項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）						
	市民	県指定史跡「高遠山古墳」の保存整備工事を実施し、貴重な文化財として一般に公開する。						
事業内容	県指定史跡の用地取得及び保護保存整備							
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画					
	H16日野地区自治会から保存と活用についての陳情書が提出されている。	国、県及び他市町村による文化財保護保存整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護法 ・長野県文化財保護条例 ・中野市文化財保護条例 					

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	8,225,700	10,000,000
		国庫支出金	円	0	0
		県支出金	円	3,046,000	1,500,000
		その他（使用料他）③	円	0	0
		市費（起債）	円	0	0
		市費（一般）	円	5,179,700	8,500,000

III 期待される効果

- ・崖面崩落の危険防止
- ・保護保存整備完了後の文化財の活用
- ・文化財保護意識の醸成

IV 現状と課題

- ・ H16. 7. 28 高遠山古墳整備保存検討委員会
- ・ H17. 3. 28 県史跡指定
- ・ H18年度 用地取得
- ・ H19年度～整備事業設計及び保存整備工事

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

現場公開や現地説明会の開催により、地域の貴重な財産を再認識する機会を設ける。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	公民館報発行事業					
事務事業 担当部署	教育委員会	部・事務局	中央公民館	課・室	教育係	係

I 事業のプロフィール

事業期間	昭和 23 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	2 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）			
	市民	昭和23年11月20日創刊号を発行し、公民館事業、まちづくり、文化、歴史、環境問題等を取り上げ住民密着の広報誌を発行する。			
事業内容	公民館事業のお知らせ・分館活動事業の紹介や地域での話題を中心に、地域住民の考えや意見を取り入れながら、自由な発想と構想で公民館が発行する学習広報誌として発行している。				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	掲載記事へ反応が寄せられ、地域の文化活動や、地域の歴史を知りたいニーズが高い	・各地区の分館報			

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	318,250	402,000
		国庫支出金	円		
		県支出金	円		
		その他（使用料他）③	円		
		市費（起債）	円		
		市費（一般）	円	318,250	402,000

III 期待される効果

地域から選出された編集委員が、住民のための館報を作ることにより、多くの住民が地域に親しみを感じ、より良い地域づくりへの心が醸成される。

IV 現状と課題

産業の移り変わり、文化の変遷を特集し、世代を超えた広報誌づくりに努めている。
市の広報誌と合冊で発行されているため、公民館報が埋没しているとの意見もある。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

中野市各地区1名計10名の編集委員により作成しているが、公民館の情報発信紙として、更に地域住民の意見を取り入れるよう工夫を凝らしながら発行していく。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	シニア大学・高齢者学級				
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	公民館	課・室	係

I 事業のプロフィール

事業期間	昭和 49 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章 ② 節 1 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を） おおむね60歳以上の市内在住者で 受講を希望される方	意図（どのような状態にしたいのか） 急速な社会変化と高齢化が進む中で、シニアの皆さんがさらに教養を高め、生きがいのある充実した生活を創造するための学習の場、地域社会における奉仕活動などのリーダー養成の場、そして受講生同士の交友の場として、中野市シニア大学を開設する。	
事業内容	本講座のねらいに沿った内容で、哲学・科学・歴史・芸術・文学・社会学・保健体育など、講義、実技、鑑賞などにより受講していただく。講座は年間を通して13講座行う（平成24年度は16講座）。講座の他に受講生の希望に基づき6クラブ各6回のクラブ活動を開設する。		
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画
	学習意欲が高い	県シニア大学	基本計画・生涯学習基本構想

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	951,480	999,920
		国庫支出金	円		
		県支出金	円		
		その他（使用料他）③	円		
		市費（起債）	円		
		市費（一般）	円	951,480	999,920

III 期待される効果

受講生が、日常的に触れることのできない学習環境の中で、生涯学習意欲の向上させ、また、生きがいをもって毎日を暮らし、集うことで仲間作りができる。

IV 現状と課題

- ・さまざまな分野の学習に意欲的に参加していただいている。
- ・天候により参加人数に変動がある。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

さまざまな分野の学習とそれにとまなう講師の選任を工夫する。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	子ども育成事業				
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	公民館	課・室	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 15 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6)	章	②	節	1	項	
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）							
	市内の小学生及び保護者	様々な体験、学習活動を通して子どもたちの自主性、協調性を学ぶ機会を作る。また、地域の子育ての場とする。							
事業内容	地域の伝統行事や、伝統食文化を体験する講座、世代間交流、各種創作教室、自然の物を活用した自然に親しむ講座など								
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画						
	子ども育成事業については、民間企業による同様のサービス提供はないため、市民ニーズは高い。						基本計画・生涯学習構想		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項 目	単 位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	331,620	374,620
		国庫支出金	円		
		県支出金	円		
		その他（使用料他）③	円		
		市費（起債）	円		
		市費（一般）	円	331,620	374,620

III 期待される効果

子どもの教育が問題となっている中、地域の伝承文化に関する講座、世代交流、創作講座等の様々な経験を通し、子供たちに生きる力を育む。

IV 現状と課題

核家族化、共働きの家庭が多い中で、親の仕事との関係で参加したくてもできないケースもみられる。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

他の教育機関との連携を図った講座も企画していきたい。地域の人材を活用し、より多くの地域文化の伝承を進めたい。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	図書館まつり事業				
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	図書館	課・室	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 8 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	2 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）			
	すべての市民	より多くの市民に図書館の理解を深め、より多くの市民の図書館利用の促進を図る。			
事業内容	秋の読書週間にあわせ2日間実施。図書館での、文化講演会、古本市、書庫一般開放の実施。ボランティア団体の協力により、おはなし会などの各種イベントを実施。				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	2日間で延べ1800人程度の参加者があり、身近な図書館事業として、好評を得ている。		基本計画・生涯学習基本計画		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	46,400	72,300
		国庫支出金	円		
		県支出金	円		
		その他（使用料他）③	円		
		市費（起債）	円		
		市費（一般）	円	46,400	72,300

III 期待される効果

図書館に来ることによって、図書等にも興味を持ってもらうきっかけとなる。

IV 現状と課題

各種イベントは、参加者が少なく、全体の入館者数も増加していない。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

出来るだけ多くの方に参加してもらおうよう、イベントの企画からボランティア団体の意見をとりいれていく。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	読み聞かせステップアップ講座				
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	図書館	課・室	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 14 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	2 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）			
	読み聞かせ実践者や読み聞かせをした市民	講座の受講を通じ、図書館利用のきっかけとするとともに、子ども読書活動の推進を図る。			
事業内容	「もっと楽しく読み聞かせ」講座を3回開催。 第1回「乳児、幼児へ読み聞かせ・おはなし会をするときに」、第2回「幼児と小学校低学年へ読み聞かせ・おはなし会をするときに」、第3回「小学校低学年と高齢者へ読み聞かせ・おはなし会をするときに」				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	1回当たり20人程度の参加者があり、好評を得ている。		子ども読書活動推進計画		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	61,000	61,000
		国庫支出金	円		
		県支出金	円		
		その他（使用料他）③	円		
		市費（起債）	円		
		市費（一般）	円	61,000	61,000

III 期待される効果

読み聞かせを実践されている方のレベルアップとなる。

IV 現状と課題

県内で読み聞かせを実践されている方に講師を依頼し講座を開催しているが、内容の都合で参加者を増やすことが難しい。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

多くの市民に参加してもらえよう、講座内容の充実を図る。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	子ども読書週間事業				
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	図書館	課・室	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 15 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6) 章	2 節	① 項
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）			
	概ね3歳以上から小学生までの子と親	市民に広く子どもの読書活動についての関心を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める。			
事業内容	子ども読書の日を中心とする子ども読書週間に、ボランティア団体と協働し、小学生・ボランティア・職員によるおはなし会や絵本展、小学生図書館体験、上映会を開催。				
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画		
	読み聞かせを聞きに来館する利用者があり、楽しみの一つとなっている。		子ども読書活動推進計画		

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	2,800	3,000
		国庫支出金	円		
		県支出金	円		
		その他（使用料他）③	円		
		市費（起債）	円		
		市費（一般）	円	2,800	3,000

III 期待される効果

子ども読書活動推進計画に基づく、子どもの読書活動の推進となる。また、小学生が参加することにより、子どもが積極的に読書活動を行う。

IV 現状と課題

六つのボランティア団体と小学生が、おはなし会を実施しているが、参加者数は横ばいとなっている。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

小学生だけでなく、中学生、高校生も参加できるように、呼びかけを行う。

VI 最終評価

最終評価	B（改善継続）
------	---------

平成25年度中野市事務事業評価シート（抜粋）

事務事業名	学芸員講座				
事務事業担当部署	教育委員会	部・事務局	博物館	課・室	係

I 事業のプロフィール

事業期間	平成 21 年度 ~ 平成 年度	総合計画体系	(6)	章	2	節	①	項	
事業目的	対象（誰のために、受益者、何を）	意図（どのような状態にしたいのか）							
	・市内外全ての一般成人者	・市民の知的好奇心に応える学習の場を提供するとともに、学芸員の日頃の研究成果を市民に還元し、歴史や文化、自然への理解を深めていただく。							
事業内容	・月1回（通年又は3ヶ月程度）、博物館研修室を会場に、館学芸員が自分の専門とする分野について、初歩的な内容から専門的な研究の成果に至るまで、市民の皆さんが理解しやすい言葉で分かりやすく説明し、郷土の歴史や文化、自然への理解を深めていただく講座。								
	市民ニーズ等の状況	国、県、民間等による類似事業	根拠法令・基礎となる計画						
	・毎回、10~20人前後の参加者があり、開講当時からのリピーターも多い。	・他の博物館や美術館等でも、同様の講座が実施されている。	・博物館法 ・博物館法施行規則						

II 事業の費用

事業費	財源内訳	項目	単位	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
		事業費①	円	99,855	228,600
		国庫支出金	円	0	0
		県支出金	円	0	0
		その他（使用料他）③	円	18,687	90,000
		市費（起債）	円	0	0
		市費（一般）	円	81,168	138,600

III 期待される効果

市民のニーズに応じて初歩的な段階から専門的な講座内容まで引き上げ、より高い学習成果を上げることにより、参加者が郷土の歴史や文化、自然への理解と愛着を深めることができる。

IV 現状と課題

数年間継続的に実施している講座については、参加者が固定化されつつあり、新しい参加者の取り込みを図る。

V 事業主管課としての改善・改革ポイント

日々変化する市民ニーズを十分に把握・検討し、新しい講座の開設や講師を務める学芸員の質の向上を図っていく。

VI 最終評価

最終評価	A（現状継続）
------	---------

平成 24 年度 教育委員会の会議及び委員の主な活動状況

教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体的な事務を執行します。「教育なかの」の発行、教育委員会会議録をホームページで公開するなど、市民に開かれた教育委員会を目指しています。

1 委員会の開催状況

(1) 定例会の開催回数 12回

(2) 臨時会の開催回数 5回

議案等件数

・議案 31件

うち 予算・決算 6件

人事案件 17件

その他 8件

・協議 27件

・報告 24件

・その他 22件

2 協議会の開催回数 12回

3 市長との懇談会 1回

(懇談事項)

- ・いじめが背景として認められる生徒の自殺事案の発生について
- ・教職員の不祥事について
- ・通学路の安全点検について
- ・中野市教育委員会が取り組んでいる「連携教育」について
- ・中野市立小学校及び中学校適正規模審議会について

4 教育委員研修視察（東京都・東京藝術大学美術館）
（視察事項）

- ・施設概要について
- ・東京藝術大学美術館の機能、運営について
- ・近代洋画の開拓者 高橋由一
- ・レオナルド・ダ・ヴィンチ 美の理想

5 教育委員による学校訪問

県主幹指導主事の学校訪問の際に同席し、教育現場の課題等を実地に見聞するとともに改善等を指示した。

6 「教育なかの」の発行

「広報なかの」の紙面を活用し、「教育なかの」を春夏秋冬の年4回発行した。

7 入学式・卒業式等への出席

児童生徒の姿や学校の状況を実地に見聞することができる機会として、入学式、卒業式、運動会、学校祭等の学校行事に参加した。

平成24年度 「教育なかの」 各号テーマ一覧
 (年間テーマ) — 教育を拓く知恵 —

発行月	主テーマ	サブテーマ
4月	教育委員会の重点施策と予算	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の健全育成を推進するため、教育環境の充実やきめ細かな指導による学力向上、特色ある学校づくり ○小学校の保健室へのシャワーの設置、教育用コンピューターの更新などの環境整備 ○重要な文化財の保護や埋蔵文化財の発掘調査と記録保存、出土遺物の保存活用 ○中央公民館の耐震補強、生涯学習のまちづくり推進のための地域活動の支援 ○図書館の開館時間延長の試行と読書に親しむ環境づくり ○プラネタリウムのソフト更新、各種講座、企画展の開催 ○地元食材を生かし、栄養バランスや安心・安全に配慮した学校給食の提供
8月	学校適正規模・適正配置の審議会設置	<ul style="list-style-type: none"> ○1クラスの適正人数、1学年の適正クラス数などの審議 ○公募委員の募集
	特集・つながる 「生き方が変わる家庭学習」	<ul style="list-style-type: none"> ○「だから学ぶ」・・・学ぶ魅力はここにある！ ○「自ら学ぶ」・・・生活習慣は全てを支える！
	学校じまん「永田小学校」	<ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとにふれて ○ありがたいPTA・地域の底力 ○ふれあいを大切にして
11月	学校適正規模・配置の審議が始まる	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回審議会開催 ○審議員の紹介 ○通学路の緊急合同点検を実施
	特集・つながる 「キャリア教育で育む自立心」	<ul style="list-style-type: none"> ○今、なぜキャリア教育が必要か ○キャリア教育のねらい

		<ul style="list-style-type: none"> ○家庭・地域・学校の連携 ○中学校「職場体験学習」の充実を目指して ○支援組織の立ち上げ ○中学2年生「職場体験学習」新たな自分との出会い
2月	本年度の重点施策を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> ○「連携による教育力向上」一年目の実践終わる ○柳沢遺跡の銅^{どうか}戈・銅^{どうたく}鐸が中野市立博物館へ ○通学路の緊急点検に伴う安全対策を実施 ○少子化時代の学校教育の在り方議論が始まる
	学校じまん「高社中学校」	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと講座」の開講 ○生徒間の人間関係づくり